

## 高齢心不全患者の周辺症状②

# 消化器症状に対する漢方薬

漢方薬は、心不全自体よりも“心不全に伴う周辺症状”に活かされやすいです。  
標準的治療を行っているにもかかわらず、患者が困っている場合には、ぜひ漢方薬を検討してみてください。

消化器症状に対する代表的な処方をも、下部と上部に分けて提示します。

下部消化器症状		甘草含有(g)			
便秘	TJ-126	麻子仁丸		習慣性便秘	
その他*	TJ-100	大建中湯	3	体が冷えやすい	腹痛や腹部膨満感に
	TJ-32	人参湯			食欲不振を認める慢性腸炎
	TJ-30	真武湯			上記以外の慢性腸炎
	TJ-17	五苓散		冷えない場合の下痢には、五苓散を用います。	

### \*【心不全患者の下部消化器症状】

とくに高齢、低心機能、腎不全患者などに慢性下痢が合併した場合は、重症化につながる可能性があり、早期改善が望まれますが、治療に難渋することも少なくありません。

上部消化器症状		甘草含有(g)	
TJ-32	人参湯	3	体の冷えが顕著で、食欲不振を伴う胃腸炎症状
TJ-43	六君子湯	1	冷えが顕著でない食欲不振に

## 証に関わる情報

### 冷え

心不全患者は低灌流、循環障害、加齢などで冷えていることが少なくありません。  
漢方薬には、温める薬剤が多く存在します。冷えて悪化した病態には、温める漢方薬(温熱薬)を用います(例:大建中湯、真武湯、人参湯など)。  
心不全患者の慢性下痢には、冷えが関与していることが比較的多く、温熱薬が奏効しやすいケースがあり、腹痛、腹部膨満感を伴う慢性下痢には、大建中湯の使用頻度も高くなります。

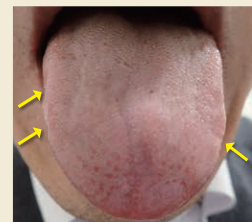
### 水毒

「体液の偏在した状態」を指します。水毒の症状には浮腫、下痢、めまいなどがあり、とくに水様性の下痢は水毒の範疇になります。

水毒の治療薬を利水薬といい、体液の偏在を是正し正常に戻そうとする働きがあります(例:五苓散、真武湯など)。

六君子湯は、「胃の水毒」をさばくことで、食欲不振を改善させる働きがあります。

舌と胃がつながっていることから、六君子湯は「舌のむくみ」(図)のある人に適応する人が多いと言われています。



全体的に舌の腫れた感じあり歯型(矢印)がつく場合もある

図 舌のむくみの例

**17** ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
 口渴ならびに利尿減少を主目標として用いる。  
 1) 浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。  
 2) 心窩部に振水音を認める場合。

効能又は効果

口渴、尿量減少するものの次の諸症：  
 浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸カタル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、  
 胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

(2014年10月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。  
 2. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。3. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

頻度不明	
過敏症注1)	発疹、発赤、痒痒等
肝臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP等の上昇)

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

**30** ツムラ真武湯エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
 新陳代謝が低下して体力虚弱な人で、全身倦怠感や四肢の冷感があり、下痢、腹痛などを訴える場合に用いる。  
 1) 本方の下痢は、裏急後重を伴わない。  
 2) めまい、身体動揺感、心悸亢進などを伴う場合。

効能又は効果

新陳代謝の沈衰しているものの次の諸症：  
 胃腸疾患、胃腸虚弱症、慢性腸炎、消化不良、胃アトニー症、胃下垂症、ネフローゼ、腹膜炎、脳溢血、脊髄疾患による運動ならびに知覚麻痺、神経衰弱、高血圧症、心臓弁膜症、心不全で心悸亢進、半身不随、リウマチ、老人性痒痒症

(2013年3月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2)暑がりで、のぼせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれるおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。プシを含む製剤との併用には、特に注意すること。  
 3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

頻度不明	
過敏症注1)	発疹、発赤、痒痒、尋麻疹等
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

**32** ツムラ人參湯エキス顆粒(医療用)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】  
 1. アルドステロン症の患者  
 2. ミオパチーのある患者  
 3. 低カリウム血症のある患者  
 [1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
 比較的体力の低下した冷え症の人で、食欲不振、胃部停滞感、下痢など胃腸機能が低下している場合に用いる。  
 1) 胃腸虚弱、倦怠感、尿が稀薄で量が多い、口中にうすい唾液がたまるなどの症状を伴う場合。  
 2) 腹部が軟弱無力で振水音のある場合。

効能又は効果

体質虚弱の人、或いは虚弱により体力低下した人の次の諸症：  
 急性・慢性胃腸カタル、胃アトニー症、胃拡張、悪阻(つわり)、萎縮腎

(2007年5月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること) 薬剤名等 (1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 (3)ループ系利尿剤 フロセミド、エタクリン酸 (4)チアジド系利尿剤 トリコロールメチアジド 3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。(1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症:低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー:低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

**43** ツムラ六君子湯エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
 比較的体力の低下した人が胃腸機能が低下して、食欲不振、心窩部の膨満感などを訴える場合に用いる。  
 1) 全身倦怠感、手足の冷えなどを伴う場合。  
 2) 腹壁の緊張が弱く、心窩部に振水音を認める場合。

効能又は効果

胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、  
 貧血性で手足が冷やすいものの次の諸症：  
 胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

(2020年5月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。(3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。2. 相互作用 併用注意(併用に注意すること) 薬剤名等:カンゾウ含有製剤、グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 3. 副作用 副作用発現頻度調査における発現頻度 (1)重大な副作用 1)偽アルドステロン症(頻度不明):低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)ミオパチー(頻度不明):低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。3)肝機能障害、黄疸(頻度不明):AST、ALT、Al-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

**100** ツムラ大建中湯エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
 体力が低下した人で四肢や腹部が冷え、腹痛、腹部膨満、鼓腸のある場合に用いる。  
 1) 腹壁がうすく軟弱無力で腸の蠕動不安を認める場合。  
 2) 冷えにより症状の悪化する場合。  
 3) 開腹術後の腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感。

効能又は効果

腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

(2016年6月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。3. 副作用 副作用発現頻度調査(2010年4月~2012年3月)において、3,269例中、64例(2.0%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎(頻度不明):咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。2)肝機能障害、黄疸(頻度不明):AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

**126** ツムラ麻子仁丸エキス顆粒(医療用)

〈証に関わる情報〉使用目標=証  
 体力中等度あるいはやや低下した人の習慣性便秘で、老人や病後の虚弱者に常用される。  
 1) 大便是硬く、塊状を呈することが多い。

効能又は効果

便秘

(2013年3月改訂)

使用上の注意(抜粋)

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、腹痛、下痢等があらわれるおそれがある。] 2. 重要な基本的注意 (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。(2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。(3)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。  
 3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。  
 4. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

頻度不明	
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

用法及び用量 通常、成人1日7.5g(ツムラ大建中湯エキス顆粒(医療用)は1日15.0g、)を2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

\*その他の使用上の注意、組成・性状、包装、承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月は製品添付文書をご覧ください。